

日刊 磐城時報

編輯部 磐城石城郡平町新町十四
印刷部 磐城石城郡平町新町十四
發行部 磐城石城郡平町新町十四
電話 磐城石城郡平町新町十四
廣告料 一行十四字 日金五十銭
印刷料 一行十四字 日金五十銭
訂閲料 一月 日金五百銭
A 日刊 (日曜、祭日) 休刊

共産黨事件に連座した

小名濱生れの女性

看護婦時代から赤化

一年半ぶりで記事解禁
昨年三月十五日未明に全各警署の生家を訪ねると質母トシ(五)を連れてある野口女教員は語る。私はセツといふ人は教へないがその姉ナツは預つた事がある。妹のセツは凡庸で可愛い人でした。学校の成績は体操が八点である外全部九点で優等生でした。云々

五長老も決定しかねた

縣參事會員の争ひ

結局比佐代議士の意向をきく

セツは小名濱町字本町大工職丹野(六)の三女に生れ、兄野一郎(六)の三女に生れ、兄弟は五人、女四人あり、尋常三年まで小名濱小學校に通學したが、三年の時父母が茨城縣日立鎮山に嫁ぎに行き一緒に行き、三年以後は日立小學校に轉校したが、その第一回の協議會は四高等小學校を卒業した、卒業後日午前十一時から平町民政黨俱日立鎮山病院の看護婦となつた。樂部に開き意見の交換を行つたが、その頃から左傾思想を植付が、何れとも纏まりがつかず結核の首魁とも見るべき執行委員決定する事となつて散會した。

團體事務所

移轉寄附
町村に割當
炭礦労働者
石城地方は昨今石炭の需要期に町村長會を開いて割當額を協定する事になつた。

原町通信

原町有基本本地問題

愈々奇怪な事實判明

結局司直の手に移らん

相馬郡原町にては去月開會の町が、調査の進展に連れ愈々奇怪な点が現はれたので若し舊町堀跡約二百餘坪分が何等賣却もせぬのに地積の地主連は何れも吾物顔で使用されつゝある事實がある事判明したるを以て全く町當局の失態となり且つ當時の委員の責任問題が起るものと見られて居るが、本問題は結局司直の手に依つて調査されるものであるまいかと注目されてゐる。

水道擴張工事の

財政計劃變更

比佐代議士等の陳情で

内務省の方針が判明

平町の水道擴張工事の起債二十萬石城郡會では五日午後一時から萬圓の認可方については秋原町から内郷村大字宮沼館に於て政議は比佐代議士と共に四日東京談話會を開き比佐代議士その主務省に認可方を陳情したが、内務省の意圖では、平水道擴張工事の財政計劃中國縣補助を事業費中に繰入れてあるが補助が減少し或は廿年以上にも延期されぬとも限らぬから事業費中に繰入れるは面白くないとの事であるが、國縣補助を償還財源に充當すれば許可するといふ方針である事が判つたので平町と協議の上財政計劃の變更をして再申請をなす事になつた。

石城教育會

秋季總集會

石城教育會秋季總集會は十日午前九時から平第一小學校に開き各種協議、會員の表彰の後成城學校主事小原國芳氏の講演がある。

平署長近く退院

署長荒井市太郎氏は緑内症で東京市牛込區石津眼科病院に入院中であるが経過よく来る十五日頃退院する等。

小學生赤井登山

城郡好間尋常高等小學校兒童二百余名及尋常校兒童二百五十名は三日体育デーの催しとして渡邊、米本兩校長引率のもとに赤井嶽登山を行った。

石川組旅行

石川組系工場にては三日第一組を利用して男女工が甲乙の二組に分れ甲組三百余名が伊達郡靈山に向ひ、乙組約三百余名は宮城縣下の金華山へ團體旅行を爲し即日歸宅した。

原町の招魂祭

在郷軍人分會主催にて内町殉難者の靈魂を弔ふ爲め五日午前十時より同地夜の森公園に招魂祭を行ひたり。

組總會

相馬郡稅務署管内製鐵組合は六日午前十時から同署議事室に於てた事を自白した。

婦人矯風會

原町婦人矯風會にては来る七日石川組製糸場講堂に於て婦人修養講演會を開催方法につき協議會を開く等。

ビラ押收

秋深くして失業者等の一しは深刻さを増す頃石城地方の炭礦方面にも多數の失業者が出る状況なので常磐炭礦々夫組合、社會民衆黨磐城支部では失業防止と黨勢擴張のため大宣傳を開始すべく「組織せよ、團結せよ、然して勤勞無産階級の堅城を守れ云々」のビラ數千枚を印刷したが、これを探知した平署では無届けなる理由に出版法違反で四日全部押收して仕舞つた、この嚴重なる取締に對し連合並に社民黨支部では今後の運動にも關係することと對策を考究中である。

泥棒少年

末恐ろしい
石城郡大浦村大字下仁井田生れ當時住所不定無職浦田修(十七)は二日午後五時頃大浦村地内を徘徊中擧動不審として四倉署に檢査され取調べた結果同人は性來の不良少年で去る一日午後一時頃平町鎌田町木賃宿山形屋から五十銭の買物を依頼されたまま逃走一日朝自宅から兎四尾を井田根本利吉方不在中現金四圓五十銭、八月中自宅から現金二十圓五十銭、同村根本直之助方から現金四圓六十二銭を窃取した事を自白した。

國民保健体操 感想文募集

昨年十一月一日御大禮記念施設として新に創案せられたる國民保健体操(一名ラヂオ体操)は體育の民衆化乃至生活化といふ時代の要求に投合して創案後僅に一年にして全國的に周知せられ學校、官廳、會社、工場等の團體に於て實行しつゝある者のみでも既に百萬人を突破するといふ素破らしい盛況を呈してゐるのであるが、此の施設を創始した簡易保險局では一周年を機会として左記の要項に依り廣く一般實行者より此の体操に就いての感想文を募集しその代表的なるものは小冊子として希望者に配布することとした。

募集要項

- 一、題名 國民保健体操に就いての感想
- 一、用紙 半級又は原稿用紙一行二十五字詰一枚二十行五枚以内
- 一、謝儀 當方にて輯録した原稿の執筆者には薄謝を呈す
- 一、宛先 逕信省簡易保險局規畫課(應募原稿と朱記すること)
- 一、締切 昭和五年一月末日

交通安全デー 平署の取締

五日交通安全デー當日平警察署では平町役場、平土木監督所、石城消防協會、自動車協會支部、平自轉車組合と協力し管内各町村に左の如きビラを撒布し交通安全の宣傳を行った。

教員庭球

石城郡教育會主催濱三郡教員庭球大會は三日午後零時半より平第一小學校内に開き前年優勝者石城郡好間小學校チームよりカップを返納し次いでA、B兩組に分ち平商業及第一校兩コートで試合を開始Bコートは第三回(中山木田組)湯本(飯高森)の對戦半にして降雨のため午後二時から決勝戦を行ふ事となつたが第三回戦の成績左の通り。

- ▲Bコート
- 錦(鈴木)3-0植田(齋藤)
 - 好間(鈴木)3-0泉(菅野)
 - 平(藤田)3-0湯本(箱崎)
 - 第一(井上)3-0上岡(菅野)
 - 赤井(班目)3-0上岡(菅野)
- ▲Aコート
- 赤井(川隅)3-1小川(黒木)
 - 未了
 - 好間(中村)2-0湯本(飯高)
 - 以下組合
 - 第一(金澤) 湯本(前川)
 - 平(大内) 湯本(岡部)
 - 江名(千代木) 好間(高橋)
 - 佐藤

江戶前季節節

鳥松 鰻

平町南町平館隣り
電話四二四番

腸胃

内科 専門

腸十二指腸 胃病 胃性腸病

婦人病 皮膚病

院醫科村松

(七〇一話電町南平)

佛國マルソー會社元詰

生葡萄酒

マルソー・ブランク・白 1.10

マルソー・ルージュ・赤

良品にして安價賣行飛ぶが如し

西村屋藥局

驚いた!!!

こうまで安いとは

平・加納活版所の印刷物

牛豚肉廉賣

秋みみのる秋!! 肥ゆる秋!!!

愈々食肉のシーズンは来る
精力と体力の増進を計るは今!!!

牛	中	肉	百斤	金	二十五
牛	上	肉	同	金	四十五
豚	中	肉	同	金	六十五
豚	上	肉	同	金	八十五
豚	中	肉	百斤	金	二十五
豚	上	肉	同	金	四十五
豚	中	肉	同	金	六十五
豚	上	肉	同	金	八十五
平	驛	前	(元平劇場入口)	金	六十

電話五二四番

防寒!!!

眞綿入毛シャツ
眞綿入都巻
婦人シヨール
マガレットオーバー
メリヤスシヤツ

等々... 流行と經濟とを兼ねた防寒具の色々...

平町四丁目 日丁四平

店商ヤルツ

外科専門 X光線科

上田外科醫院

電話一二九番

外科

醫學士 海津俊一
X光線科主任 木下寅一
院長 新妻由五郎

赤心堂病院

平町田町 電話四五四

耳鼻咽喉科

平町仲田町七一

新築 津醫院

電話五九五番

君はい、型の洋服を求められたね。眺だね? いや君コレは例のソレ正札堂ぞ



平町正 通場車停町平正 堂札

母シン儀

永々病氣加療中の處 養生不相叶十一月三日午後三時十分死去致し候に付此段辱知各位に謹告仕候

追而来る六日午後零時より全一時迄於自宅告別式相営可申候

昭和四年十一月四日

男 平町字胡摩澤 大河原金之助

親戚總代 小川太 友入總代 伏見彦 衛